

九州の清涼は霧島温泉にあり

國都線霧島神宮驛の開通に際し……(1)

一 記者

○
梅雨あけの急に暑さの酷しくなつた數日を迎へて丸ノ内の往來を唸つてゐた處へ、霧島神宮驛開通式の招待をうけて急に薩南行を決した。

七日八日午前十時東京驛を發車する。さすがは特急富士號の車内はすいてゐる。空はドンヨリ曇つてゐるが、大船邊になるとスクリーンを通す窓からの風は新緑の氣を含んで大變に涼しい。昨年の今頃は北海道行の寢臺車で暑さにウダつてゐたものだが今日は大變な樂だ。

○
車内は乗客も少く話相手もなく同行者もないので沼津邊から原稿紙を出して原稿に掛る汽車に乗つてゐる事も忘れて三時間程は筆を運んだ。團體旅行になると話が賑つて中々斯う出来ない、殊に所謂記者團なやものになると實に騒がしいもので徹夜で騒ぐ場合が多い。幸にして此行は車中で執筆の静さである。

○
京都、大阪、神戸で下車する人は可成りあるが、乗る人は少い、神戸をすぎからウツラウツラ眠に入る。線路が悪いのか列車の動搖が激しくなる、東海道線に比べると大變な相違だ、もつとも東海道の方は百両度軌條であるし超特急の試運転までやたのであるから良い筈であるが、良い處は氣が付かないで山陽線になつてやつと氣が付く始末だ。

○
徳山邊から目が醒めた見馴れた瀬戸内海沿岸の風景も曉は殊に良い、海軍の燃料廠の整頓した構内が車窓から一目だ。九日午前九時下關驛着直に關門連絡線に乗る。

○
大阪で日本一の夕刊を買ふた時に目に付いたのが『發電工事場の爆發格事』と云ふ大見出であつた。それが九州の出來事であるから都合によつたら其方を先に視察しようかと思つたが、門司へ來て朝刊を見ると詳報が出てゐる、宮崎縣白杵郡西郷村山須原發電所工事の千三百米の隧道の斜坑工事々所に於

て、坑口のダイナマイト箱が突然爆發して死者四名負傷者二十餘名に及んだと言ふのである。爆發の原因はダイナマイト入の箱が滑り落ちて自然爆發した尙ほ十五名は坑内に生埋めになつてゐるとの事であるが、坑奥の故障でないから勿論此は直ぐ助かるものである。工事上の損害は大した事でもなくて、死傷者の多かつた事は氣の毒なものである。我々も曾て同一事故で同僚の一人を亡ふた事があるが、何れにしても死者に目なし、其原因がはつきりしない場合が多い、唯何處かに不注意のあつた事は相違ない原因の一つである。

○
九日九時四十五分門司發、鹿兒島行急行にのり、今度は可なり客が多い。門司を發車して暫らくは北九州の工業地帯を過ぎる。否それは實に日本を代表する工業地帯であり、或は東洋第一の工業地帯である。小倉、戸畑、八幡等の大小各種の工場から吐出す煤煙は實に壯觀であらねばならぬが、不景氣の世界風に當られて此所、煙の出ない煙突も見えず、氣のせい、たまに煙が出てゐる煙突があつても、何だか、ヨロヨロとして元氣がない。右の海岸に林立する帆船の木だけは常に變らぬ様である。

○
九州線は汽車の煤煙が甚しい様だ、一時間もすると窓のスクリーンを通じて煤煙のかすが座の周圍に黒ゴマを撒いた様になる。石炭の本場である九州線で此の有様も皮肉だ、某氏は紺屋の白足袋だと言ふ。

(次號へ)



阿蘇山上本堂前より噴火口を望む。

國都線國分霧島神宮間建設工事概要



薩南風
光名美の
櫻島を前
にして皇
祖の靈地
霧島山麓
に七月十
日を以て
國都線霧
島驛が開

通した。

日は釘宮熊本建設事務所長及び鐵道省關係縣及鹿児島市の名士多數參列して、地元の有志により盛大に開通式を舉行された。同線は西松組林米七氏の請負工事になるものにして、工事概要は次の如く報ぜられた。(カットは霧島七不議の天逆矛)

- 一、起工 昭和二年六月二十五日
- 一、竣功 昭和五年七月九日
- 一、區間 既設國分驛霧島神宮間延長約12千790米
- 一、線路 單線軌間1米067
- 一、勾配 最急勾配1000分ノ25
- 一、曲線 最小半徑300米
- 一、築堤 460,520立米
- 一、切取 279,072立米
- 一、橋梁 7個所延長162米4
- 一、溝橋 22個所延長33米73
- 一、伏樋 下水渠涵下水13個所土管77個所延長1,205
- 一、隧道 9個所延長3,248米9
- 一、用地 222,330米8
- 一、停車場 霧島神宮(既設國分驛ヨリ12千720米)
- 一、使用セメント 33,930樽
- 一、軌道 軌條30疋第3種及37疋
- 一、工費 總額2,303,000圓1杆當リ181,340圓

